



大阪市

第34回
大阪市ハウジングデザイン賞

表彰目的

昭和62年度から始まった大阪市ハウジングデザイン賞は、大阪市内で供給された魅力ある良質な都市型集合住宅を表彰し、その優れた面を明らかにすることにより、良質な都市型集合住宅の供給を促進するとともに、広く市民の方々や住宅供給に携わる人々の住宅に対する関心を高めていただくことを目的にしています。

対象

大阪市内に建つ民間の「共同住宅」「長屋」「戸建住宅の集合」で、概ね過去5年以内に完成した（改造等を含む。）魅力ある良質な住宅や、維持管理が適切に行われ、住宅や住環境が良好に保たれている完成後20年を経過した住宅を対象にしています。また、団地の全体計画等に優れたものについては、団地全体が完成した時点で全体を審査対象とすることができます。

推薦方法

毎年、5月頃に対象となる民間の都市型集合住宅の推薦を募集します。どなたでも推薦できます。

賞の種類

賞の名称は「大阪市ハウジングデザイン賞」とし、そのうち、総合的な観点からみて特に優れたものを「大賞」、特定の分野において特に優れたものを「特別賞」として表彰します。

表彰

表彰対象住宅の事業者、設計者、施工者、管理組合、管理会社等を表彰します。また、住宅には受賞を表す銘板を設置します。

総評

今回で第34回を迎える大阪市ハウジングデザイン賞の募集に対して、262件の応募があった。本年も新築集合住宅の応募が多くかった。ただし、新築集合住宅は、住宅性能という視点から見ると安定してきたと言えるが、都市居住のあり方や都市景観についての提案的作品は決して多くない。一方、ストック時代と言われて久しいが、既存住宅の改修や維持管理の応募は依然として少ない。EUではグリーン・ディールの一環として展開しているリノベーション・ウェーブ戦略として、持続可能性を追求した新たな建築デザインの提案が行われているが、残念ながら、大阪ではこうした動きはまだ確認できていない。

上記のような状況の下で、本年度の大坂市ハウジングデザイン賞選考有識者会議では、新型コロナウイルス感染症に十分な注意を払いながら、書類審査、現地審査を経て、多面的な視点からメンバー相互の議論を重ね、ハウジングデザイン賞1件、ハウジングデザイン賞特別賞1件を選定した。

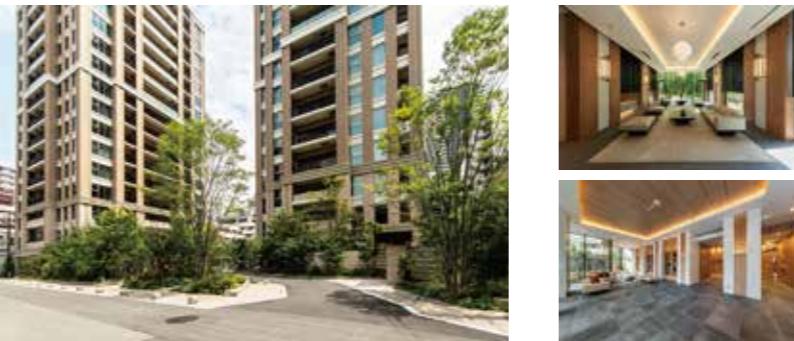
今回ハウジングデザイン賞に選定した住宅は、梅田近くに立地する2棟からなる新築高層分譲集合住宅団地である。本作品の敷地はホテルと結婚式場の跡地で、当初からあった公道を挟んだ2つの敷地を統合して計画、タワーマンションにはない穏やかな表情で街と応答している。

特別賞受賞住宅は、木造2階建長屋のリノベーションである。建設時の状態に近い外観を保全しつつ、内装は、空家化の原因を十分考慮した上で、入居者が決まるたびに1住戸ずつ改修を重ね、結果としてそれぞれの住戸が個性的で住まい手のニーズに合致した賃貸住宅を実現している。

いずれの住宅も、大阪市ハウジングデザイン賞の理念である、住宅とまちとの関係を重視した都市型集合住宅のモデルとして高く評価できる。次年度以降、新築住宅、既存住宅を含めた提案的作品や、まちと深く関わる作品などがより多く応募されることを期待したい。

(選考有識者会議座長・高田 光雄)

プレミスト梅田 サウス・ノース [分譲]



いまや都心居住の代名詞となったマンション。しかし、その多くは未だ板状かタワーであり、一向に変化の兆しが見えない。それでよいのか？そんな疑問にプレミスト梅田はほのかな希望が感じられた。梅田と中崎町の境界に位置し、狭小道路を挟む2つの敷地の同時開発であるが、既存のみちを残して高層棟が対に建つ。住棟はノースがファミリー向け、サウスが単身・小人数向けと異なるが、梅田と中崎エリアをつなぐ門をモチーフに統一感をもたせ、丁寧にデザインされている。エントランスへのアプローチは、外構のゆったりとした庭のなかを小径が続き、建物は控え目である。ゆえに、外を歩く人の視線も豊かな緑に注がれ、近隣の木々と一緒にした街路空間はまことにやさしい。当マンションは突出した意匠や斬新な住戸ではなく、一般の人々に上質な住環境を提供しており、そこが高く評価された。つまり、長らくこのような気持ちのよいマンションがありそうでなかったのである。世代を超えて住み継がれることを期待したい。

(選考有識者会議メンバー・大谷 由紀子)

所 在 地	北区中崎西2丁目
設 計 者	浅井謙建築研究所株式会社
施 工 者	大木建設株式会社
構 造・規 模	サウス：鉄筋コンクリート造、地上16階、56戸 ノース：鉄筋コンクリート造、地上17階、71戸
敷 地 面 積	サウス：1,072.54 m ² ノース：1,597.04 m ²
建 築 面 積	サウス：669.49 m ² ノース：712.16 m ²
延べ床面積	サウス：5,411.04 m ² ノース：8,182.64 m ²

特別賞 林寺2丁目長屋 [賃貸]



昭和13年築の木造2階建5軒長屋の外観を出来るだけ建築時の姿に修景し、増築されていた部分は減築し、スケルトンに近い状態にし、借手の要望によるインフィルをつけた賃貸住宅である。当住宅は、以下の点で評価できる。①5軒を全てリフォームするのではなく、まず1軒を試験的に改修し、ユーザーの反応をみて、残りは借手を決めて、借手のオーダーを取り入れてのスケルトンインフィル型賃貸住宅にした事。②セミオーダー型賃貸住宅なので、借手は自分のこだわりのライフスタイルを実現できる点で満足度が高いことから、定着性に繋がり、空家率の高い地域にとって有効な供給方式である事。③本件賃貸住宅のインフィルの費用は、借手でなく、貸手が負担しているが、投資採算性は新築よりも優良である事。本件のように自分らしい住まい方を自ら提案し、体現している借手需要が一定数存することは、今後の賃貸住宅市場の供給方に影響を与えていくものと考えられる。

(選考有識者会議メンバー・難波 里美)

所 在 地	生野区林寺2丁目
事 業 者	河合 元成
設 計 者	Office for Environment Architecture
施 工 者	株式会社キドビル工務店
構 造・規 模	木造、地上2階、5戸
敷 地 面 積	266.70 m ²
建 築 面 積	208.50 m ²
延べ床面積	346.87 m ²

撮影者：大坊崇